

“唐招提寺;世界遺産をたっぷり堪能

唐招提寺特別拝観” 国宝鑑真和上像など”

開催日:2026年6月5日(金)

集合場所:近鉄 西ノ京改札口;東出口

集合時間:9時40分

拝観費用:唐招提寺拝観料 800円(団体割引)

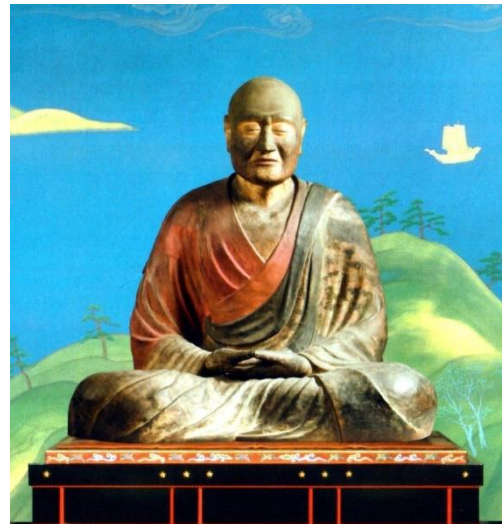
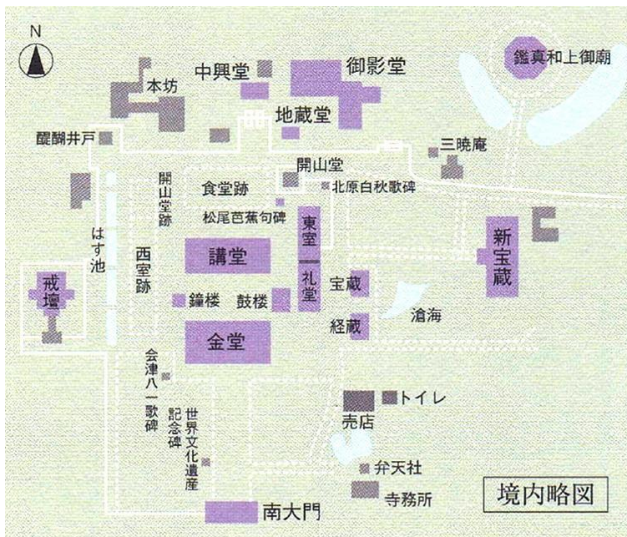
国宝鑑真和上特別拝観 1000円

当日は梅雨入り直後ということで天気はどんより、しかし暑くもなく、日差しもなく外活動としては最適です。

「奈良観光ボランティアガイドの会『朱雀』」の案内で8名ずつ分かれて境内を案内していただく

唐招提寺は、南都六宗の一つである律宗の総本山です。

多くの苦難の末、来日をはたされた鑑真大和上は、東大寺で5年を過ごした後、新田部親王の旧宅地(現在の奈良市五条町)を下賜されて、天平宝字3年(759)に戒律を学ぶ人たちのための修行の道場を開きました。



境内図で南大門からほぼ境内全体を案内していただく

鑑真和上像(撮影禁止なのでパンフレットから転写)

金堂⇒鼓楼⇒講堂⇒東室⇒開山堂⇒御影堂(鑑真和上像)⇒醍醐井戸⇒戒壇⇒鑑真和上御廟⇒宝蔵⇒南大門



世界遺産

天平文化の結晶であるその伽藍と多くの国宝、重要文化財により1998年に古都奈良の文化財の一部として、ユネスコより世界遺産に登録



金堂(国宝)

本尊・盧舎那仏坐像、右に薬師如来立像、左に千手観音立像(いずれも国宝)が並ぶ姿は、天平時代を彷彿させる厳かな雰囲気だ。



隅鬼(すみおに)

金堂の4隅四個、隅軒先で上方の荷重を支えているけなげな部材である。



鼓楼(国宝)

堂内の厨子には、仏舎利を収めた国宝の金亀舎利塔(きんきしゃりとう)が安置されている。上人の命日に執り行われるうちわまきが有名。



講堂(国宝)

平城京の「東朝集殿」という建物を移築・改修したものと言われている。平城京で使われていた建物で現存しているのはこの建物だけで、非常に貴重な建物。



開山堂

元禄時代に徳川家歴代の御霊殿として建立され、鑑真大和上の尊像を安置していたが御影堂に移されたのち現在は「御身代わり像」が安置されている



御影堂(重要文化財)

いよいよ本日メインの鑑真和上坐像が拝めます。付随して日本を代表する画家、東山魁夷画伯の素晴らしい襖絵も見ることが出来ました。



襖絵(撮影禁止なので唐招提寺のHPから転写)

日本を代表する画家、東山魁夷画伯の素晴らしい襖絵も見ることが出来ました。これだけで参加したかいがあった。

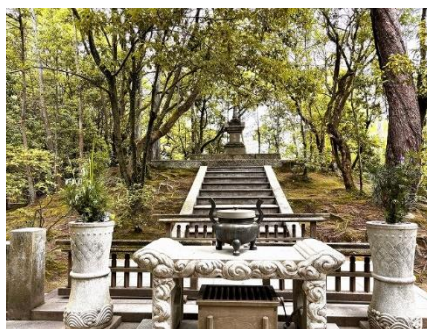


戒壇

僧となるための授戒が行われる場所です。創建時に築かれたとされていますが、中世に廃され、その後再興されたものの火災により建物は失われました。



開山御廟に続く辺りは、一面苔むしたところに木々が生えて、池もあってそれらが綺麗に手入れされて空気が一味違う。



開山御廟

唐招提寺の北東の奥まった静かな場所に鑑真和上が眠る開山御廟がある。



天平の夢

若い遣唐使が鑑真和上を日本に招く運命を描いた井上靖の歴史小説の祈念碑。

当日は3日間だけの鑑真和上座像特別開扉の日で、拝観者が非常に多く、2時間待ちらしい。我々は予約をとっていただいたおかげで、すんなりと時間通り参拝できた。ありがとうございます。

担当
A-2班